

中札内より元気いっぱい!

北海道中札内高等養護学校 校長室より

第28号

令和5年1月5日(木)

新年がスタートしました



新年、あけましておめでとうございます。いよいよ令和5年がスタートしました。一人一人の生徒、そしてその家族がどんな年末年始を過ごしたのか、と快晴の日が続く十勝の空を見ながら考えています。

年末の紅白歌合戦では、デジタル社会がさらに進んだことを実感するとともに、多様性を理解し合う社会を願うことを意図した演出が随所にみられました。「このグループはさっきのグループと似ているけれど違うんだな」「演歌が少なくてさみしいな」などいろいろ考えながら、それでも新しい年になろうとしていることを感じる時間でした。

令和5年が、生徒たちにとっても保護者、地域の皆様にとっても、さらなる飛躍の年になることを祈っております。今年も、どうぞよろしくお願いいたします。



宇宙まで見ているような十勝の青空



改めて声を掛け合うことの大切さを・・

学校では、挨拶をすることが大切であることを生徒たちに伝えています。「おはようございます」「こんにちは」「お疲れ様です」「お先に失礼します」など、生徒たちは元気に声をかけてくれます。

生徒への挨拶の促しは、礼儀、常識・・・だけではない深い意味についても、生徒たちへ伝えていけたら・・・、と思っています。

挨拶は、コミュニケーションのきっかけとなる大事なかわりであり、そこから会話に発展し、人とのつながりが育めます。日本人は、会釈なども昔から大切にされており、相手への心遣い、敬意を表してきたのだそうです。日本の昔からの所作には多くの意味があり、受け継がれずになくなっていくものも多いのだとか。デジタル化が進み、意識しなければ人とのかわりが少なくなりつつある今、生徒たちには“挨拶”“相手への言葉掛け”を大切にできる人に育ってほしいと思っています。

挨拶一つとっても、人への思いを伝える大事な習慣、「おはよう」「こんにちは」だけではなく、さりげなく掛ける「お疲れ様です」「お先に・・・」などの一言も大事にしていきたいです。



子どもたちにかける言葉

年末年始、飛行機に乗りました。空港での待ち時間で、ある親子が近くに座りました。お母さんの実家に帰省するのでしょうか、お母さんはとてもうれしそうです。

その後、お母さんから「お前たち」「OOしろよな」「ラムネ食うか」など、ちょっと気になる言葉が発せられました。小さい子どもたちにかける言葉としてはちょっと気になる言葉でしたが、日常のことなのか、子どもたちもあまり気にしていないようでした。この子たちが、お友達にも同じような言葉をかけなければいいな、と少し心配になりながら、飛行機に乗っていく親子を見守りました。

子どもたちが使う言葉は、周囲の言葉に影響されます。誰にでも優しいかわりができるよう、お手本となる大人の言葉にももっと配慮していきたい・・・、と思った出来事でした。

